

## 当会の第14回国キャリア学科試験予想問題(模擬試験)の本試験でのズバリの例

### ■本試験問題問 22 と的中した当会の問題 問 23

問 23 「令和元年版労働経済の分析」(厚生労働省)で述べられた、最近の雇用・失業情勢の動向に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

1. 2018年は、自分の都合のよい時間に働きたいという理由から非正規雇用を選択する人が最も多くなった。
3. 2018年は、正規雇用労働者・非正規雇用労働者の両方が前年より増加したが、正規雇用労働者の増加数の方が大きかった。
4. 近年、非正規雇用労働者の数は、男女ともに高齢者層(65歳以上)よりも若年者層(15歳～34歳)で増加している。

### ■解説

1. 適切なものである。2018年の非正規の職員・従業員を男女、現職の雇用形態に就いた主な理由別にみると、男女とも「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最も多くなった。なお、男性の第2位は「正規の職員・従業員の仕事がないから」であるのに対し、女性の第2位は「家計の補助・学費等を得たいから」である。
3. 適切なものであるとはいえない。2018年の正規雇用労働者数は、3,476万人となり前年から53万人増加したのに対し、非正規雇用労働者数は2,120万人となり、前年より84万人増加した。このように、2018年は、非正規雇用労働者の増加数が、正規雇用労働者数の増加数よりも31万人多かった。
4. 適切なものであるとはいえない。非正規雇用労働者数については、2014年度以降、男女ともに「65歳以上」で大きく増加している。これは、定年退職後も継続雇用等により、自分の都合のよい時間に、家計補助の目的などで非正規雇用によって働き続ける高齢者が増加していることが一因となっていると考えられる。

### ■本試験問題問 10 と的中した当会の問題 問 7

問 7 ホール(Hall, D. T.)のプロティアン・キャリア(変幻自在なキャリア)理論に関する次の記述のうち、不適切なものはどれか。

1. キャリアは、組織ではなく、個人によって主体的に管理される。
2. キャリアの目指す目標は、他者からの評価の外的な成功である。
3. 発達は、仕事のチャレンジにおいて見出される。
4. キャリアはプロセスであり、生涯を通じた経験などの連続である。

### ■本試験問題問 13 と的中した当会の問題 問 10

問 10 シュロスバーグ(Schlossberg, N. K.)の理論に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 転機のプロセスは、①転機の始まり、②転機の最中、③転機の終わりである。
2. 転機を乗り切るための資源は、状況：Situation、自分自身：Self、周囲の援助：Support、持続可能性：Sustainability である。

### ■本試験問題問 20 と的中した当会の問題 問 16

問 16 「平成 30 年度能力開発基本調査」（厚生労働省）の結果に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

1. 能力開発の責任主体について、正社員では「企業主体又はそれに近い」とする企業が多いが、非正社員では「労働者個人主体又はそれに近い」とする企業が多い。
2. 教育訓練対象者の範囲について、正社員では「選抜した者を重視する」とする企業が多いが、非正社員では「労働者全体を重視する」とする企業が多い。

### ■解説

1. 適切なものであるとはいえない。正社員に対する能力開発の責任主体については、「企業主体で決定又はそれに近い」とする企業は 77.4%、「労働者個人主体で決定又はそれに近い」とする企業は 21.3%である。正社員以外についても、「企業主体」とする企業は 66.0%、「労働者個人主体」とする企業は 31.2%である。
2. 適切なものであるとはいえない。正社員に対して重視する教育訓練対象者の範囲については、「労働者全体を重視する又はそれに近い」とする企業が 58.6%、「選抜した労働者を重視する又はそれに近い」とする企業が、39.9%である。非正社員についても同様に、「労働者全体を重視する」とする企業が 53.3%、「選抜した労働者を重視する」とする企業は 43.5%である。

### ■本試験問題問 41 と的中した当会の問題 問 39

問 39 キャリアコンサルティングの目標設定に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

4. 設定される目標は、達成困難と思われる高い目標よりも、具体的で到達可能なターゲットであった方が、相談者を動機づける。

### ■解説

4. 最も不適切なものであるとはいえない。設定される目標は、具体的なターゲットとして表現されるべきである。ターゲットの設定に際して、具体的で小さなステップを設定してキャリアコンサルティングを進めることにより、①相談者は早い段階から成功感を味わうことができる、②相談者の欲求に合わせて、キャリアコンサルティングのやり方や方策を変更することができる、③キャリアコンサルティングが今どこまで進展しているのかをチェックでき、終了するまでにできなければならないことを相互に確認できる、というメリットを持つ。